



Ⅲ

戦略研究の具現化に向けた活動





COP9サイドイベント1

2012年以降の国際気候レジーム：全ての人へのインセンティブ

日時：2003年12月3日 13:00~15:00

場所：Fiera Milano、イタリア、ミラノ

主催者：IGES CPプロジェクト

参加者：140名

概要：

国立環境研究所（NIES）と共同で、CPプロジェクトはCOP9でサイドイベントを開催した。イタリア、米国、中国、カナダおよび日本からの研究者／政府関係者たちが参加し、将来の気候政策への地球規模での参加促進について討議した。まず、NIESの亀山康子研究員から、2012以降の国際気候政策に関するIGES／NIES共同研究に関してプレゼンテーションがあった。Dr. Carlo Carraro（イタリア）は、将来の気候政策は京都議定書を発展させるかまたは新しいアプローチを実施するか選択しなければならないと述べた。Dr. Bill Pizer（米国）は、地球規模の取組みにボトムアップおよび地域的アプローチが重要であり、先進国間の排出量取引はインセンティブとしては弱いと主張した。Mr.

Lu Xuedu（中国）は、途上国が地球規模の取組みに参加するには科学技術や資金面およびマネージメントスキルにおいて支援が必要であると指摘した。Dr. Erik Haites（カナダ）は、未来の世界的気候政策には短い期間ごとの小規模な目標設定と、非協力的対象への経済制裁を含むインセンティブが必要と述べた。太田宏氏（青山学院大学）は、京都議定書への日本の関わりと、2012年以降の日本のさらなる貢献の可能性、例えば技術面でのリーダーシップ等について語った。参加者からは、提案されたインセンティブの有効性について質問が出た。また、気候変動問題に関する研究の重要性、および、ロシアの京都議定書批准によって米国の態度が変化するかどうかについて議論した。

COP9サイドイベント2

アジアにおけるCDM：機会と障害

日時：2003年12月5日 13:00~15:00

場所：ウナ・スキャンディナビアホテル（イタリア、ミラノ）

主催者：IGES CP プロジェクト

参加者：100名

概要：

（財）地球環境センター（GEC）と共同で、IGESはアジアにおけるCDMに関する問題をテーマにCOP9においてサイドイベントを開催した。まず環境省の瀧口博明氏から、環境省によるアジアでのCDM促進事業についての基調講演がなされた。続いて、GECの上野訓弘氏は、GECによるアジアの活動、とりわけ廃棄物管理、バイオマス、および植林に関する企業化可能性調査について発表した。世界銀行のMr. Peter Kalasは、CDMプロジェクトに関してアジアとラテンアメリカの比較を行い、アジアのほうがCDMのポテンシャルおよび私企業の成長ポテンシャルは高いが、地域間協力では劣ると述べた。Dr. Duan Maosheng（中国、天津大学）は中国におけるCDMの状況について語り、地方政府レベルや産業界の理解の不足、石炭価格の低さ、事務処理コストの高さ、長期にわたる複雑なCDM認可手続きなど

様々な障害について説明した。Mr. Mattias Krey（ドイツ）は、アジアにおけるCDMのための障害克服、機会促進のドイツの経験を語った。IGES上席客員研究員の松尾直樹氏は、CDMの障害克服のための方策について述べた。IGESのDr. Ancha Srinivasanは、環境省と連携したIGESのCDM能力開発事業について説明し、この事業の最終目標は持続可能な開発のためのCDMの実施に必要な人や機関の能力開発であると述べた。パネルディスカッションではアジア開発銀行、UNDP、UNIDOおよびWinrock Internationalより冒頭発言があった。パネラーたちは、それぞれの所属団体によるCDMへの取組みを紹介し、法規制緩和や制度的サポートの重要性、国レベルでの理解不足、能力開発および売り手・買い手間の手続き障壁克服の必要性について語った。



地域大気管理：— ベター・エア・クオリティ (BAQ) 2003

日時：2003年12月17～19日

場所：フィリピン、マニラ

主催：アジアの都市の大気浄化イニシアチブ (CAI-Asia)

参加者：600名以上

概要：

アジアの都市の大気浄化イニシアチブ (CAI-Asia) が主催する「ベター・エア・クオリティ (BAQ)」は、大気管理に関するアジア最大の会議であり、大気汚染とその削減戦略をめぐって世界中の専門家による討議が行われる。

BAQの2003年総会では、IGES UEプロジェクト主催でワークショップ「地域大気の管理」を開催し、数カ国からの専門家により都市部の大気汚染削減戦略、現時点における成功事例の移転可能性、国際協力の役割について討議した。

ワークショップは3部構成 (各部2時間) で、日本国環境省およびIGESによるスピーチのほか、全体で12の発表があった。世界各地からの政策立案者、研究者、専門家等の参加者から、アジア各地の先進都市・開発途

上都市における大気管理 (AQM) 施策について発表された。欧米からの参加者は、彼らの成功事例およびそのノウハウのアジア諸都市への移転可能性に関する発表を行い、現在の支援策について意見を交換した。日本の研究者および政策立案者は、過去数十年間日本で採用されてきたAQMシステム、およびAQM向上を目的とするアジア諸都市への支援に関する見解を述べた。アジア諸都市の政策立案者および研究者は、効率的なAQMシステム開発上の障害と開発機会に関する発表を行った。

最後の全体セッションでは、森嶋昭夫IGES理事長がリーダーを務めた。森嶋理事長は、アジア諸都市のAQMの障害に関する一流専門家会議においても、パネリストを務めた。

第11回アジア・太平洋環境会議 (ECO ASIA 2003)

日時：2003年6月7日

場所：湘南国際村センター (神奈川県 葉山町)

主催：環境省、神奈川県、横須賀市、葉山町、IGES

参加者：5名の大臣を含む20カ国の代表、12の国際組織、他

概要：

本会議の目的は、持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD) 以後の当該地域における持続可能な開発に対する取組を査定するとともに、ECO ASIAをアジア・太平洋地域における持続可能な開発について、ECO ASIAを閣僚級レベルで意見交換を行う場と位置づけて、同地域内での協力をめぐる今後の方向性を検討することである。

第2セッションでは、IGESからの参加者2名が、関連プロジェクトであるアジア太平洋環境開発フォーラム (APFED) およびアジア太平洋環境イノベーション戦

略プロジェクト (APEIS) に関して、進捗状況と今後の見通しを発表した。上記プロジェクトは、WSSDのタイプIIパートナーシップ/イニシアチブに登録されている。

IGESの発表では、上記パートナーシップ/イニシアチブ実施に絡む複雑な課題について、さまざまな障壁や有望な解決策などが述べられた。また、継続的なテーマとして、上記パートナーシップ/イニシアチブの達成には、地域協力の強化とECO ASIAプロジェクトが重要であることが強調された。



アジア太平洋環境開発フォーラム (APFED) 第4回実質会合

日 時：2003年8月23～24日

場 所：チンギスハン・ホテル(モンゴル、ウランバートル)

主 催：日本国環境省、モンゴル国自然環境省 (MMNE)、国連環境計画 (UNEP)、国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP)、IGES

参加者：約40名 (APFED委員18名、MMNE代表、国際NGO関係者を含む)

概 要：

本会合では、2005年開催予定のアジア太平洋環境と開発に関する閣僚会議 (MCED) に提出するAPFED最終報告書ゼロドラフトが検討された。APFED事務局による全体概要説明に続き、報告書に盛り込むべき内容に関する自由な意見交換が行われた。APFEDは、事例収集を行って優良政策事例 (BPP) および能力開発プログラム (CBP) の目録作成を進める意思であること

を表明した。また、研究者・研究機関ネットワーク (NetRes) を速やかに構築し、現時点での協同研究に対応できる3ないし5つの機関をコアグループとすべきであるとの提案もなされた。

なお本会合に先立って、モンゴルにおける現在の環境状態を討議するための専門家会議が開催された。

2003年度「産業と環境」国際シンポジウム

環境管理会計の展開とグリーン・サプライチェーン・マネジメント

日 時：2004年3月5日 13:00～17:00

場 所：神戸国際会議場 (神戸市)

主 催：IGES

参加者：約200名

概 要：

企業と環境プロジェクトは、この国際シンポジウムを3年間の研究活動の総括として位置づけ、国内外の研究者等とのネットワークを強化するとともに、会場に集まった一般参加者に環境管理会計の最前線について情報発信を行った。

まず國部克彦プロジェクトリーダーが、環境管理会計の体系と拡張可能性について問題提起した。基調講演では、テラス研究所 (米国) より世界的に著名な研究者を2名招き、D. サヴェージ博士より環境管理会計に関する世界的な動向について、M. ストゥトン博士より環境管理会計の新たな展開方向であるグリーン・サプライ

チェーン・マネジメントについて、それぞれ発表がなされた。

続いて富士通(株)、田辺製菓(株)より、具体的な環境管理会計の適用の取り組みについて報告がなされ、水口剛助教授 (高崎経済大学) からは、広い観点から環境管理会計の改善と普及促進について分析視角が提供された。パネルディスカッションでは日本と米国における環境管理会計のフロンティアについて活発な議論が展開された。会場からも積極的な質問・意見が多く寄せられ、環境管理会計の今後の展開に対する関心の高さがうかがわれた。



アジア水環境パートナーシップ (WEPA) 準備ワークショップ

日 時：2004年3月9日～10日

会 場：ホテル・マンダリンオリエンタル・ジャカルタ

主 催：日本国環境省、インドネシア国環境省、地球環境戦略研究機関

参加者：約30名（中国、カンボジア、ベトナム、タイ、フィリピン、ラオス、マレーシア、韓国、インドネシア、日本の政府関係者、水環境関係専門家等）

概 要：

「アジア水環境パートナーシップ (WEPA)」は、2003年3月に京都等で開催された第3回世界水フォーラム (WWF3) において日本の環境省が提唱したイニシアティブであり、アジア地域内における水ガバナンス及び能力向上の強化のための情報プラットフォームの構築を目的とするものである。

当ワークショップは、平成16年度からのWEPA事業の開始にあたって、その枠組み案の検討および関係各国

への事業の周知を目的として、インドネシア国環境省の協力を得て、ジャカルタで開催された。ワークショップでは、参加各国の水環境保全施策や水環境保全技術等について意見交換が行われ、良好な水環境のための適切なガバナンス及び能力開発の重要性が再認識されるとともに、参加者は水環境保全のための新たな地域パートナーシップとしてのWEPA事業を歓迎した。

第2期戦略研究成果報告会

日 時：2004年3月17日 14:00～17:00

場 所：富国生命ビル（東京都千代田区）

主 催：IGES

参加者：85名

概 要：

第2期戦略研究（2001年4月～2004年3月）の3年間の締めくくりとして、日ごろからIGESの活動に理解と協力をいただいている行政機関、賛助会員はもとより、広く一般の企業・市民、大使館、報道機関、資金拠出団体等を対象として研究成果の報告会を開催した。

会場には2つのスクリーンが用意され、日英でパワーポイントが表示されるとともに、同時通訳が行われた。当日発表したのは、気候政策、都市環境管理、森林保全、企業と環境及び長期展望・政策統合の5つのプロジェクトで、これまでの研究と成果のほか同時に第3期のテーマについても言及した。会場からは質問やコメントが活発に寄せられ、IGESの今後の研究活動にとって有意義なものとなった。



©IGES



国際シンポジウム

21世紀の地球環境戦略 ～神奈川からの発信～

日 時：2004年2月29日 14:00～17:00

場 所：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

主 催：IGES

後 援：環境省、神奈川県、財団法人 かながわ学術研究交流財団（K-FACE）

参加者：183名

概 要：

本シンポジウムは、アジア太平洋地域の持続可能な発展の鍵を握るとされている、地球温暖化と水問題に焦点を当て、地域と密着した国際戦略研究の展開という視点から、初の試みとして、世界の専門家と神奈川県で取組みをされている方々の参画を得て開催した。

当日は日曜日にも関わらず多くの方の参加を得、環境に対する関心の高さをうかがわせた。環境大臣・神奈川県知事による来賓挨拶の後、基調講演として、IGESの

戦略研究の成果および日本や世界の気候変動政策の動向について報告があった。また、続くパネルディスカッションでは、昨年「第3回世界水フォーラム」が京都で開催され注目を浴びている水問題を取り上げ、国内外の環境問題に携わる専門家7名から、アジアの現状や将来展望が分かりやすく紹介されるとともに、日本や神奈川県がこれまでに蓄積してきた取組みの経験がアジアの水問題の解決にどう貢献できるのか議論した。



©IGES